

# 2019 年専門官能評価士 試験問題

## ◆注 意◆

1. 問題は開始の合図があるまで開かないで下さい。
2. 開始の合図とともに、受験番号と氏名を必ず解答用紙に記入して下さい。
3. 解答用紙は、書き損じても再交付しません。十分気をつけて解答して下さい。
4. 印刷が不鮮明な場合は申し出て下さい。ただし、問題に関する質問は一切受け付けません。
5. 解答を書き終えても、また試験放棄しても試験が終わるまで退室できません。
6. 試験終了後は、こちらの指示があるまで着席のまま待機して下さい。
7. トイレに行きたくなった場合、あるいは気分が悪くなった場合は、手をあげて係員に申し出て下さい。
8. 試験中、顔写真と照合のため監督者が回ってきたときには顔を上げて下さい。
9. 試験会場内は禁煙です。
10. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。

## 2019年 専門官能評価士試験問題

下記の設問 1～3 について、解答を別紙解答用紙にご記入ください。

【問 題 1】人との（製品）との関係を考えたとき、ある時間経過が必ず存在している。食品であれば、見て、匂いを嗅いで、舌触りを感じて、味を意識して、テクスチャーの時間的変化があり、飲み込んだ時に喉越しを意識して、というように、人との関わりの中で時系列変化が存在している。この時系列性に注目した評価手法に、「Temporal Dominance of Sensation」(TDS)法がある。主に食品分野で使用されているが、人との関わりの視点から、TDS 法の問題点を **300 字以内**で指摘せよ。

【問 題 2】新商品を市場に投入しようとしている食品会社がある。市場には既に複数の競合品がある中で、新商品についてのコンセプトおよび品質の優位性を検証しようとしている。この時、当該食品会社はどのような実験計画をたてるべきか **350 字以内**で考察しなさい。

なお、この会社は最終商品をつくるいわゆる BtoC のメーカーであり、この実験に対する予算および時間的スタンスは、十分ではないものの、ある程度余裕のある状況だとする。

【問 題 3】パス解析や共分散構造分析を理解するためには、解析モデルの特徴を直観的に伝達する「パス図」を理解する必要がある。以下に示す「パス図：A，B」は、多変量データへそれぞれ異なった統計解析法を適用したモデルである。それぞれの解析モデル名と図中の a，b，c，v に該当する名称などを使用して各モデルと解析法の特徴についてそれぞれ **200 字以内**で記載しなさい。